

浅野総一郎像「里帰り」

氷見市に日本鑄造が寄贈

創業100年、感謝込め

氷見市出身の実業家、浅野総一郎（1848―1930）が創立した鑄造品メーカー日本鑄造（神奈川県川崎市）は28日、同社の最先端技術で制作した浅野の像を氷見市と氷見商工会議所に寄贈した。9月1日で創業100年を迎えることを記念した。

の用途に浅野総一郎の顕彰事業を加えたことに触れ、浅野ゆかりの企業との交流に意欲を示した。

日本鑄造は「京浜工業地帯の父」と称される浅野によって、1920（大正9）年に設立された。社名は創業時から変わっておらず、主力事業の鑄造品製造は浅野の時代から続く。

鷲尾社長は市役所訪問後、氷見商工会議所で寺下利宏会頭と懇談した。

鷲尾社長は氷見市役所で「100年頑張ってきたことを初代社長の生誕地で宣言し、世話になった人に感謝と、これからも頑張っ

ていく決意を込めた」と述べ、高さ10センチの台座に乗せられた。川崎市の日本鑄造本社にある銅像から画像データを採取した。同社が開発した合金素材「LEX

最先端技術で制作



日本鑄造が制作した浅野総一郎の像



像を贈る鷲尾社長（左）と
林市長
＝氷見市役所

「ZERO（レックス・ゼロ）」と金属3Dプリンタを融合させた技術を使った。

山崎さんにも像は5体作られ、浅野の支援者だった山崎善次郎氏の子孫で全国浅野総一郎友の会の山崎健代表世話人（氷見市藪田）や、川崎市、川崎商工会議所にも贈られた。